

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	<p>中学年においてある程度定着している既習事項が、学年が上がるにつれて不十分となっていく現状を開拓する必要がある。算数タイムや「ドリルパーク」等の活用といった取組を継続するとともに、「個別最適化な学び」の中に既習事項の振り返りを組み込んだり、ICTを活用して児童が定着の不十分な内容を自分で把握できる機会を設けたりする。また、長い文章を最後まで粘り強く読み取る技能を身に付けるため、日常的な読書活動の推進を継続する。</p>	
思考・判断・表現	<p>「個別最適化な学び」「協働的な学び」を重視した教育活動は、次年度も継続していく。ただし、課題の設定や解決などを児童が選択する場面が多くなるため、教員が児童の学びを十分に見取らないと、学習内容の理解が不十分になってしまう。教科書の文や複数の資料からポイントとなる事柄を読み取り、つなげて課題解決にせまる活動を授業に多く取り入れることで、児童の思考・判断・表現する力を向上させていきたい。</p>	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>国語では漢字や主語・述語などの文法、算数の面積の求め方といった既習事項が十分に定着していない。 <指導上の課題>日常の学習の中で、既習事項の振り返りを行う時間的な余裕がない。</p>	<p>⇒ 業前学習である算数タイムの時間を有効活用し、「ドリルパーク」等のICTを活用した教材やミニテストに取り組む。【毎月2回程度実施】 日常の学習の中で、5分以内の短時間の習熟や振り返りの時間を確保し、既習事項の定着を図る。【毎時間設定】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>特に算数において、割合や複合図形のように思考や表現が伴う問題の平均正答率が低い。 <指導上の課題>昨年度まで取り組んでいた国語の読解力向上の研究は、国語においては成果があったが、他教科につなげない。</p>	<p>⇒ 「個別最適化な学び」「協働的な学び」を研修課題に位置づけ、全教職員が取り組む。活動の中にICTを活用した共同編集等の協働的な学びを取り入れ、自ら考え進んで表現できるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	C	<p>業前学習である算数タイムの時間を有効活用し、「ドリルパーク」等のICTを活用した教材やミニテストに取り組んだり、全国学力・学習状況調査で明らかとなったわり算などを習熟したりしたほか、日常の学習の中でも短時間の習熟や振り返りの時間を確保することで、既習事項の定着を図ることができた。しかし、学年が上がるにつれて、定着が不十分になっていく傾向が見られるため、家庭学習を含め学び方を改善していく必要がある。</p>
思考・判断・表現	B	<p>「個別最適化な学び」「協働的な学び」を研修課題に位置づけ、全教職員が取り組むことができた。また、活動の中にICTを活用した共同編集等の協働的な学びを取り入れた結果、R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、5・6年生における肯定的な回答の割合が91.3%となり、取り組んだ成果が表れている。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の漢字についての問題に課題がみられた。現在より2学年前に学習した漢字を書くことができない児童が多く、確実な定着につなげていないものも考える。また、無解答の児童の割合が市平均よりも高く、長い文章を最後まであきらめずに読み取ることが苦手としている児童が多いと思われる。また算数では、わり算の除数が変化することで、商がどのように変化するのか、十分に理解できていない児童が多い。除数が1よりも小さい数のわり算は、商がもとの数よりも大きくなることについて、なぜそうなるのか理由を伴った理解に結び付け、しっかりと習熟する必要がある。</p>	
思考・判断・表現	<p>算数では、「速さ」についての問題で、解答類型から数直線や公式などの既習事項を活用して解答していない児童が多く見られる。また、問題から必要な内容を読み取ることができず、既習に寄らない式や計算をして誤答となる児童が多い。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」における肯定的な回答の割合は93%で、全国平均を上回っていることから、普段の学習の中で思考することはできているようだ。授業の中に限らず、このような問題を解く場面でも十分に思考し、既習事項を活用して解答する習慣を身に付けさせなければならない。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語では、主語・述語の関係等の文法に関する問題に課題がみられた。特に、高学年において課題が顕著に表れているため、文法の基礎基本となる事項は定着していても、文章構造が複雑になったり、難解な語句が用いられていたりすると、文意の把握が不十分になる傾向があると考えられる。算数の図形に関する問題についても、いまだ課題が見られる。こちらも、学年が上がるにしたがって課題が顕著に表れるため、問題が複雑になる高学年については、既習事項を活用して問題を解くという思考法を身に付けていかなければならないと考える。</p>	
思考・判断・表現	<p>思考・判断・表現の領域に関する問題は、同一集団の経年比較において、昨年度を上回った学年が多かった。しかし、学年によっては昨年度を下回っているものもあり、取組の継続が必要である。特に6年の国語では、文章と図表などを結び付けながら必要な情報を読み取ることに課題があった。国語に限らず、他の教科でも文章と写真や資料を関連付けて読む機会は頻繁にあるため、児童、教員とも十分に意識して授業を進めなければならないと考える。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<p>算数タイムの時間等で教材やミニテストに取り組ませているが、今後は前学年までの漢字や計算等にも取り組むことで習熟を図っていく。また、長い文章に慣れさせるため、読書活動を充実させ、特に高学年は小説や長めの物語文・説明文等に挑戦させる。</p>	<p>算数タイムの時間に、全国学力・学習状況調査で明らかとなった漢字やわり算などを習熟するため、「ドリルパーク」等のICTを活用した教材やミニテストに取り組む。【毎月2回程度実施】 業前学習である「モーニングブックタイム」で、長い文章の読書に取り組ませる。【毎月3回程度実施】</p>
思考・判断・表現	B	<p>友だちと話し合い、自分の考えを深めたり、広げたりすることは、全国平均を上回っている。学校課題研修と関連しており、今後も既習事項を活用するよう声かけをしながら授業の工夫・改善に努める。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)